



通信

2025. 8. 22 No. 185 号

公益社団法人 福島原発行動隊

東京都千代田区神田淡路町1-21-7

静和ビル 1階A室 〒101-0063

Tel: 03-3255-5910 Fax: 03-3525-4811

Mail: svcf-admin@svcf.jp Web: http://svcf.jp

転居された方は事務局（svcf-admin@svcf.jp）まで転居先をお知らせください

暑中お見舞い申し上げます

どぜう鍋雑記

加藤朗

牧山議員の選挙応援中の7月14日昼、安藤さんと山田さんと私は、暑気払いをかねて、浅草の名店「どぜう飯田屋」へと向かった。国際通りから横道に入ったその店は、まるで時間が止まったかのような、昔ながらの風情を今に伝えていた。瓦屋根に木造の店構え、暖簾をくぐると、そこには江戸時代から続く老舗の風格が漂っている。



一階は畳で低い机。昔の鍋は炭火だった。二階はテーブル席になった。何故かどぜうにはくすらレジラ>が付き物。それが壁のお品書きに見える。

通された2階の部屋はテーブル席で蓑を編んだ莫蔭が敷いてあり、涼しさを演出していた。高齢者にありがちな転倒で足の小指を骨折した私には椅子席はありがたい限りだった。この空間だけが、開発の波にのまれず、昔の浅草の記憶を留めているようだ。特に印象的だったのは、今も変わらずに下足番が履物の整理をしていることだ。店の入り口で靴を脱ぐと、若いお兄さんが手際よく靴の整理をしてくれる。この些細な習慣一つにも、飯田屋が守り続けてきた伝統と誇りを感じた。

料理は、もちろん名物のどぜう鍋だ。熱した鉄鍋に、どぜうと笹がきごぼうを敷き詰め、甘辛い割り下を注

ぐ。ぐつぐつと煮える音と、食欲をそそる香りが座敷に広がる。一口食べると、どぜうの淡泊な旨味とごぼろの風味が絶妙に絡み合い、そして溶き卵を絡ませて食すると、箸が止まらない。どぜう鍋を堪能していると、店員さんから驚くべき事実を聞かされた。これまで、どぜうは台湾からの輸入ものがほとんどだと思っていた。以前、浅草の別のどぜうの名店、「駒形どぜう」で、どぜうは台湾産だと聞いた記憶があったからだ。だが、飯田屋で使われているどぜうは、秋田で養殖されている国産のものだという。

「え、国産なんですか？」思わず私は声を上げてしまった。日本で養殖している業者がいることに驚き、同時に、この素晴らしい食文化を途絶えさせないために奮闘している人々がいることに、感動と感謝の念が湧き上がってきた。

飯田屋のどぜうをたらふく食べた後、私たちは会計を済ませて地下鉄に向かった。一步外に出ると、ここは現実の浅草だ。国際通りは全く様変わりしていた。外国語が飛び交い、観光客目当てのお土産屋や、派手な看板の新しい飲食店が並んでいる。以前の国際通りには、もう少し落ち着いた雰囲気があったように思う。昔ながらの喫茶店、少し寂れた飲み屋など、古き良き浅草の面影が残っていたはずだ。しかし、今の国際通りは、まるで別の場所に迷い込んだかのような。まるでロサンゼルスやハリウッドにあるコリアン・タウンのような。国際色豊かになったといえはいいが、それは同時に、長年培われてきた浅草の個性が失われたということでもある。古き良き伝統を守り続ける飯田屋と、観光客目当ての開発に飲み込まれた国際通り。その対比は、時代の流れと文化の継承について、深く考えさせられるものだった。

飯田屋の近くにあったかき揚げで有名な「天健(てんたけ)」がある。安藤さんから、今度はぜひそこに行こうと誘いがあり、地下鉄に向かう道すがらスマホで検索すると、なんと最近閉店していた。また一軒、古き良き浅草を忍ばせる店が失われた。昔ながらの情緒を大切にする「どぜう飯田屋」が、インバウンドの波に飲み込まれず、浅草にこれからも残り続けることを祈るばかりだ。これからもおいしいどぜう鍋を食し続けたい。

♪憧れのハワイ航路♪

～戦後 80 年の旅行記～

家森健

ダニエル・K・イノウエ空港へ向かうハワイアン航空が着陸態勢をとった。窓外に真珠湾が見えてきた。戦艦らしき艦影が二つ、アリゾナ記念館の白い建物が海上に浮かんでいる。84 年前 12 月 7 日の真珠湾はどのような状態だったのかと想いつつ空港に着陸した、40 数年ぶりのハワイに降り立った。リメンバーパールハーバー……か？

♪晴れた空 そよぐ風 港出船の ドラの音 愉し♪

広島県大竹市出身の石本美由紀作詞「憧れのハワイ航路」、明るい爽やかな曲調は江口夜詩作曲である。驚くことに太平洋戦争が終わり僅か 2 年後の作品である。真珠湾攻撃から 6 年しか経っていないのである。歌手岡晴夫にて大ヒットとなった。戦争の「影」が微塵にもうかがえない。



ワイキキ海岸にあるホテルに泊まる。海岸を散歩中、「ハワイ・アメリカ陸軍博物館」の施設をたまたま



見かけたので入館した。東京から来た日本人、と伝えたら無料で拝観できた。陸軍の施設であり内部に展示されて

いるものの多くはさすがにハワイだけあって日系人部隊のものだ。第100歩兵大隊のイタリア戦線へ派兵、第442連隊に組み込まれた。ドイツ軍捕虜を連行する有名な写真も掲示されている。米国西海岸には日本人排斥運動も起こり敵性外国人として多くの日系アメリカ人



がマンザナール等の強制収容所に送られた。日系二世ジャンヌ・ヒューストン著「マンザナールよさらば」には、当時の日本人家族が描かれている。展示物には真珠湾攻撃の写真等が僅かである。強制収容された多くの若い日系アメリカ人は、軍隊に志願しヨーロッパ戦線で戦い、勲功を得た者多数であった。ダニエル・K・イノウエ氏はその一人である。志願する事に家族から反対されもしたようだ。とりわけ一世の父親から……私が当時の若者であるならば志願しただろう。が、馬齢を重ねて父親の世代となった今なら「反対」姿勢になる。

1988年レーガン大統領は強制収容を公式に謝罪し生存者一人あたり2万ドルの補償金支払いを決定した。(市民の自由法)

ジュンブライド

この度のハワイ行きは甥の結婚式に招待されたからである。旅費等は甥夫妻が一切支払ってくれ愛称「太平洋のピンクパレス」の地元老舗ホテルだ。有り難いことである。式場は1927年創業の

SVCF 通信：第185号 2025年8月20日

である。ホテル庭にて挙式であり、ワイキキ海岸が直ぐそこにある。遠くにダイヤモンドヘッドが見えるので絵になる式進行となっている。

甥家族の幸せな姿を見つつ……戦争はやっちゃいけない(広島弁)

無料ながら、8月15日の石破総理大臣式辞が私の不戦の誓いであるので引用しておく。I

「……先の大戦から、80年が経ちました。今では戦争を知らない世代が大多数となりました。戦争の惨禍を決して繰り返さない。進む道を二度と間違えない。あの戦争の反省と教訓を、今改めて深く胸に刻まねばなりません。同時にこの80年間、我が国は一貫して、平和国家として歩み、世界の平和と繁栄に力を尽くしてまいりました。歳月がいかに流れても、悲痛な戦争の記憶と不戦に対する決然たる誓いを世代を超えて継承し、恒久平和への行動を貫いてまいります。未だ争いが絶えない世界にあって、分断を排して寛容を鼓し、今を生きる世代とこれからの世代のために、より良い未来を切り拓きます。」(令和7年度全国戦没者追悼式総理大臣式辞から)



一期一会

安藤 博

酷暑の夏。ことしはいやが上にも暑いものとなりました。過去 20 年来ご縁のある参議院議員の、4 回目の選挙の応援に加わったからです。公示日 7 月 3 日から投票日前日 19 日までの 17 日間、行動隊の理事長とふたりほぼ毎日、選挙区内の駅頭で候補者が行う演説の傍らで選挙チラシ配りを行いました。

<17 日間>

自宅から 2 時間半から 3 時間かけて街宣活動の場までを行き来する、4 時過ぎに起きて自宅最寄りの東西線原木中山駅を始発 5 時 2 分に乘ると、街宣開始の 6 時半にほぼ間に合う。一日の終わりの 20 時、「今日はここまで、また明日」と帰りの電車に乗ると、帰宅は 22 時 30 分から 23 時。時には車内で寝過ごして危うく終電に。これをほぼ毎日続けるのだから、楽ではありません。

しかし議員事務所の若手運動員たちは、駅頭活動の前から現場に来て場所取り、幟旗立て、候補者とともに「本人」の旗を立てて歩き回る。ひとつの駅の活動が終わると、幟旗などを片付けて次の場所に飛んで行きます。「危険な」といわれるこの暑さで、わたしたちが一日中そんなことをしていたら、それこそ危険です。

熱中症で倒れたりしないように、昼日なかの中抜けとふたりの朝・夕分担を徹底的に。われわれが倒れでもしたら選挙戦の敵陣営から「パワハラ選挙、80 過ぎの高齢者が



朝集合すると草色のユニフォームを着けてビラ配りの持ち場に散っていく。炎天下に追い立てられて重篤熱中症に」とやられるのは必定ですから。

中抜けは、なんと言っても映画館。候補者に知られてはまずいけれど、涼しい喫茶店などより気兼ねなく 120-150 分を過ごせる。つまらない映画なら昼寝。評判の『国宝』を含め、5 本観ました。あとにも先にも、こんなに集中的に映画を観た事ありません。

<候補者に労わられるようでは>

「お水、飲んでますか」「選挙宣伝カーの中は涼しいので休憩を取って下さい」—候補者たちは、しきりにわれわれの体調を気にして声をかけてくれます。応援にきたけれども、むしろ選挙活動の足手まといになってはいないかと気が引けます。

同じような高齢者ゆえの引け目を、沖縄の辺野古米軍基地建設に対する反対行動の中で実感したことがあります。辺野古の海岸を埋め立てて滑走路をつくる、その埋め立て土砂を建設地に搬入するダンプトラックを搬出港や米軍基地ゲート前などでの牛歩活動で止める、実際には止める事は出来ずダンプの出入りを牛歩で多少なりとも遅らせる。基地ゲートや積み出し港入り口には、止められたダンプの長蛇の列が出来る。それをもって、例えば「通常一日 500 台のところを、今日は 350 台に止めた」といったように基地反対行動の成果を数えるのです。

昨年春、15 人あまりで行なっていた牛歩活動に参加していた私に、屈強な機動隊の兄ちゃんが近づいてきて言いました、「センパイ、無理して急いじゃダメよ。ゆっくりゆっくり」。よほど弱々しくみえたのでしょうか。機動隊員に労られたのがいかにも業腹で、ひと声上げました、「皆さあーん、機動隊さんが『ゆっくり、ゆっくり』とおっしゃってます、ゆっくり行きましょう」。機動隊のにいちゃん、おおあわてで叫びます、「えー、違うよ。『ゆっくり』はセンパイだけ」。抗議行動のじゃまをしに来ている警察の鼻をわずかながら明かしてやったとほくそ笑みながら、「機動隊に労

られるようじゃ、おしまいだ」とつくづく思ったのです。

選挙活動応援にきて候補者に労られるようでは、ほんとにおしまいです。

<存在『感』>

どの街宣活動の場に行っても、チラシ配り等に加わる人手は十分でした。それぞれの地区の、候補者につながる市議会議員などとそのスタッフがどっと動員されているからです。私たちのチラシ配りは、動員された運動員たちの行列の間を抜けて二番煎じ三番煎じみたいになってやってくる通行人に、もうひとしぼりを試みるようなものでした。

だから私たちのひとりやふたり抜けていても、それぞれの現場の活動にはさして影響はないのです。が、選挙運動の応援に来ているという存在感は失われないように気



ピラを受け取ってくれる通行人が神様に見える。

を配りました。要所要所でしかるべきところに顔を出すことです。わざわざ遠路を出張って来ているのだし、人手は十分であっても候補者はわれわれ“枯れ木”に“ヤマのにぎわい”を演じて欲しかったようですから。

それで、選挙活動応援の「存在」そのものではなく「存在感」なのですが、この「感」、テレビで日本政府の高官などが「スピード感をもって対処いたします」だの「緊張感をもって事態の推移を見守ります」だのと言っているのを、なんとも腹立たしい思いで聞いていました。「感」とはなんだよ」と。

ヴァイトゲンシュタイン(1889-1951)の「すべての哲学は、『言語批判』である」をベースに古田徹也東大准教授が著した『いつもの言葉を哲学する』(2021/12/30、朝日新聞

出版)で、この「感」を厳しく批判しています、「明言を避け、責任を回避する姿勢」の現れと。

選挙活動応援を「感」でしのいでいる事に、自分でも内心忸怩たるものがありました。しかし、先述したように選挙活動の応援にフル出動したのでは生命の危険すらあります。候補者たちに存在感が伝われば、それでいいではないかと思うことにしました。

<6 年ぶり>

たっぷり中抜けをしたとは言え、炎天下 17 日間のお務め。人生もう二度とないかも知れない難行でした。五度目の参院選応援、まあないでしょうし、こちらの年もありません。

案ではないとはいえ、案外楽しいものでもありました。長時間の電車往復で、結構本を読みました。開票結果はトップ当選。やはりうれしいものでした。

そして 6 年前の選挙応援の時を思い出して「今度も」と期していた2つのことをかなえました。

ひとつは知るひとぞ知るピザ専門店【シチリア】。もうひとつは 6 年前選挙戦応援をともしたひとりの女性との再会ですが、この件は詳述を控えます。

【シチリア】は、6 年前と違って選挙事務所の直近です。【シチリア】が近づいてきたのではなく、今回の選挙事務所は、一階でピザを焼いているこの店と同じビルの二階と三階に構える事になったのです。近くていいようで、逆に近すぎてなかなか行けませんでした。昼はやっていないので夕刻ですが、皆が選挙で目の色を変えている、そのすぐそばです。やはりワインも一本くらいはとなりますから、「選挙の応援に来たクセに」と不謹慎の誹りを免れません。

窺っていたチャンスが、選挙戦最終日の夕刻に訪れました。選挙事務所に詰めている運動員の方が、20 時で終了の選挙活動打ち上げとなる最寄り駅に向かって出払ってしまう。

【シチリア】開店の 17 時ころから、こちらもち上げの場に存在感を示しに行く 18 時半ころまでの 1 時間余、もうひとり選挙応援に駆け付けてくれた行動隊員と 3 人で、この世ものとは思えないほどのピザ 3 枚を、安いけれど

「次の6年後、またお会い出来るでしょうか」
「次、もうないかも知れませんね」

一期一会。ふつうなら誰でも、社会人になるくらいにはわきまえるはずの、この、人生絶対の理を、わたくしは愚かにも”いい年こいて” この時ようやく悟ったのです。



選挙活動の打ち上げ。何度も何度も「必勝！」ダメ押しの声を上げる。

////////////////////////////////////

・院内集会

18 日(木曜)

・連絡会議

以下の各金曜日 10:30—

5、12、19、26

・『SVCF 通信』

26 金曜日発行

